

---

# 文章の要点を読み取り、自分の言葉で

## まとめる力を育成する学習指導

～「鏝節―世界に誇る伝統食」の授業実践～

三観・観音寺中 杉原悠斗

---

### 1 はじめに

三観支部では、「生きて働く力を育む国語教室～言葉による見方・考え方を働かせ、深まる学び～」の研究主題のもと、授業づくりや研究を行っている。今回は2年生を対象に行った「書くこと」の授業実践を報告する。

### 2 授業実践

#### (1) 題材について

- ① 本教材は、鏝節の特徴や製造工程、用途などを論理的に説明した文章であり、説明文の読解指導に適している。情報の構成が明確で、「定義→具体例→評価」といった説明の型に沿って書かれており、生徒が文章構成を意識しながら読む力を養うことができる。また、専門的な内容を分かりやすく伝える工夫や、比喩、具体的な数値など、説明文における表現技法を学ぶ題材としても効果的である。文章全体を通して一貫した主張がなされており、筆者の意図を的確に読み取る力や、複数の情報を整理・統合する力を育てることができる。さらに、学習の発展として、文章の要点を活かして新聞や紹介文などの形でまとめる表現活動に展開することも可能であり、読解と表現を連動させた指導が実現できる教材である。
- ② 本学級は、男子19名、女子12名の計31名の賑やかなクラスである。明るく団結力のあるクラスだが、それ故に、「楽しい」を優先させた一部の言動がクラス全体に伝播してしまうこともある。生徒の

多くは、説明的文章の構成や要点に注目しながら読む力を少しずつ身に付けているが、文章全体の論理構造を見通したり、重要な情報を取捨選択したりすることに苦手意識をもつ生徒もいる。

一方で、視覚的な資料や図表などを活用した活動には関心を示す傾向があり、自らまとめたり表現したりする活動を通して理解を深めることが期待できる。

#### ③ 以下の点に留意して指導を行う。

- ・ 「表現の工夫」の一つに「本文の段落の最初に使用されている接続詞」を入れることで、本文の接続詞に着目させるとともに、文章の論理構造や重要な情報の取捨選択ができていくかどうかを、互いに評価できるようにする。
- ・ 3～4人のグループで評価し合うようにすることで、発表への苦手意識を軽減しつつ、一人一人への評価に時間をかけられるようにすることで、学習内容が定着するようにする。
- ・ MetaMoJi を活用して要点をまとめた新聞を作成することで、「書くこと」へのハードルを下げるとともに、共有時に各自のモニターで見られるようにして、正しい評価が付けられるようにする。

#### (2) 単元の目標

- ① 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用や出典の示し方について理解を深め、それらを活用することができる。
- ② 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

### (3) 本時の学習指導

#### ①目標

- ・ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。
- ・ 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

#### ②学習指導過程

学習内容及び学習活動	教師の支援活動
1 学習課題を確認する。	○ 前時の学習を振り返りつつ、本時のゴールをイメージさせる。
<b>表現の工夫に着目し、新聞を評価し合おう。</b>	
2 表現の工夫について振り返り、最終の手直しを行う。	○ 評価の観点にもなる表現の工夫について振り返り、必要であれば新聞の手直しを行わせる。
3 グループで評価し合う。 <b>【手順】</b> ①一人目の生徒が発表を行う(3分程度)。他の2～3人は発表を聞きながら評価シートに評価を記入していく。 ②「表現の工夫」一つ一つに対しての評価を伝える。 ※①②をグループの人数分、繰り返す。	○ 以下の表現の工夫に着目して、評価させる。 ・ 問いかけの文章 ・ 本文の段落の最初に使用されている接続詞 ・ 誇張した表現 ・ 挿絵 ・ 見出し
4 最もよかった新聞を各班で一つずつ選び、全体で共有する。	○ 模範的な生徒の実例を全体で共有することで、何を、どのように表現できていればよいのかを明確に示す。
5 評価や全体共有を参考に、新聞の手直しを行う。	○ グループ交流での学び合いを基に、新聞の最終手直しを行わせる。
6 読み手の興味を引く文章について、まとめを行う。	○ 評価の観点を生徒の制作物と照らし合わせながら見て、読み手の興味を引く工夫についてまとめを行う。
7 本単元の振り返りを行う。	○ 本単元で学んだことを言語化させる。

#### ③目標達成を確かめる視点

- 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができたか。 学習活動5〈MetaMoJi〉
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができたか。 学習活動3〈発表・観覧〉

### 3 成果と課題

本文の要点をまとめた新聞を相互評価する活動において、3～4人の少人数での班構成にすることで、発表に対する抵抗感を弱めるとともに、一人あたりにかかる評価の時間を確保することができた。それによって、表現を工夫することで伝えたいことを明確にしたり、読み手の興味を引いたりすることができる気が付き、手直しに取り入れる生徒が多かった。しかし、表現の工夫に着目した評価ができずに、班活動に参加しきれなかった生徒もいたため、今後は、そのつまずきにどのような支援を行うのかが課題である。